

年度	2026
講義名	日本文学特講 I (奈良時代の作家と作品)
担当教員	大島 武宙
開講キャンパス	武蔵野
授業の実施形態	対面 / Face-to-Face
集中授業	
開講学年	2 年生
単位数	2
授業の方法	講義
使用言語	日本語

授業概要	『万葉集』の歌の表現を中心に、奈良時代の歌人たちが作品の特徴を整理できるようになることを目標とする。そもそも、この時代の歌を読解するとき、「作家」や「作品」というとらえ方そのものを再考する必要があることも意識して、自分なりの関心に結びつけて追究できるようになるために基礎的な知識を習得する。
------	---

知識・専門性の到達目標	奈良時代以前の文学の様相について基本的な知識を身につけ、諸作品の表現についてその解釈や意義を説明できる。【教養・基礎力】
関心・態度・人格の到達目標	奈良時代以前の作品の具体的な表現について、現代語の感覚との差異をふまえながら検討することができる。【自己認識力・他者理解力】
思考力・判断力の到達目標	奈良時代以前の作品について、現代語とは大きく異なる文法や語彙によっていることをふまえながら読解を進めることができる。【情報分析力・論理的思考力】 奈良時代以前の作品についての先行の研究を批判的に検討・整理したうえで、自分の意見をまとめることができる。【創造的思考力】
交感力・発信力の到達目標	奈良時代以前の作品について、従来の研究を踏まえながら自分の言葉でその解釈や意義をわかりやすく説明することができる。【表現力】

「響学スパイラル」取り組み方法	授業時間内には『万葉集』に収められた歌などの表現を分析し、そこにどのような場面や発想が認められるかを考えます。講義を聞いて、その内容をしっかりと理解することも大切ですが、自分で理解できたと思うことと、その内容をふたたび自分で話したり、文章に書いたりして他人に伝えられることは、実は大きく違ってきます。この授業では、授業後のリアクションペーパーの配布、回収や、その内容の共有、さらにそれに対する感想や批評を述べる機会の確保を通じて、教員と学生間の意見交換はもちろん、学生間の議論も促したいと考えています。
-----------------	---

授業における「アクティブな知」の要素	授業手法	対象
	A: 課題解決型学習 (PBL) 企業、自治体等との連携あり	-
	B: 課題解決型学習 (PBL) 連携なし	-
	C: 反転授業 (知識習得を授業外で行い、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	-
	D: 討議 (ディスカッション、ディベート等)	-
	E: グループワーク	-
	F: 発表 (プレゼンテーション)	-
	G: 実習、フィールドワーク	-
	H: 双方向授業 (ICT活用なし: 対話型、リアクションペーパー等)	○
	I: 双方向授業 (ICT活用あり: クリッカー、タブレット、スマートフォン等)	-
	J: 講義のみ	-
	K: その他	-

授業における「ICTの活用」について	活用形態	対象
	A: ノートPC必携	-
	B: 講義資料や授業教材のオンライン配信	-
	C: レポート課題等のオンライン提出	○
	D: 質問やレポート課題等へのフィードバックにおける学修管理システムの活用 (学修支援システム (Course Power)、Google Classroom、Teams等)	○
	E: オンラインメディアの活用 (e-Learning、edX、Coursera、JMOOC等のOpen Educational Resources)	-
	F: Zoom、Google Meet等のミーティングツールの活用	-
	G: その他	-

予習 (事前学修)	各授業	・ 次回の時間にどんな内容が扱われるのかを確認し、配布された資料などがあればその内容を通読する。 ・ 理解の及ばない箇所や疑問を持った箇所をまとめておき、その部分について調べてみる。 ・ 自分なりの関心と結びつくところがないか考えてみて、その内容をメモしておく。
	[120]分	

復習	各授業	・ 配布された資料、自分のノートを見なおして、疑問点がないか確認する。自分の言葉で説明することを試みる。 ・ 前回よりも前の授業の内容との関係を見なおして、さらに生じた疑問をメモしておく。
	[120]分	

(事後学修)			
成績評価	評価項目	評価項目の詳細内容	割合
	課題提出(レポート)	小課題2回と、最終課題を課す予定です。ただし、最終課題は小課題の内容を含んだものとし、小課題への取り組みが活きるようにしたいと思います。	100%
	小テスト		0%
	試験		0%
	実習・学外学修活動		0%
	その他		0%
授業計画	授業回	内容	
	1.	上代文学概説① (予習)日本文学史上の「上代」の範囲、特色について調べておく。(120分～) (復習)上代文学史上の主要な文献について概要を整理しておく。(120分～)	
	2.	上代文学概説② (予習)上代文学の韻文作品の種類、形式について調べておく。(120分～) (復習)『万葉集』および『古事記』『日本書紀』の歌についての調べ方を把握する。(120分～)	
	3.	『万葉集』概説① (予習)『万葉集』の基本的な事項について確認しておく。(120分～) (復習)『万葉集』と前後の時代の漢詩文との関係について考える。(120分～)	
	4.	『万葉集』概説② (予習)『万葉集』の時代区分、主要歌人について調べておく。(120分～) (復習)『万葉集』の歌人論の意義とその問題点について整理しておく。(120分～)	
	5.	初期万葉の歌人たち① (予習)「初期万葉」の意味について調べ、整理しておく。(120分～) (復習)雄略天皇、舒明天皇の解釈を整理できるようにする。(120分～)	
	6.	初期万葉の歌人たち② (予習)額田王について、基本的な事項を確認しておく。(120分～) (復習)額田王の歌の解釈について自分の考えをまとめる。(120分～)	
	7.	柿本人麻呂① (予習)柿本人麻呂の歌にどんなものがあるか通覧しておく。(120分～) (復習)『万葉集』における人麻呂の位置づけについて具体的にまとめる。(120分～)	
	8.	柿本人麻呂② (予習)人麻呂の相聞歌・旅の歌の解釈を確認しておく。(120分～) (復習)人麻呂長歌の修辭について具体的な例に基づいて考察する。(120分～)	
	9.	柿本人麻呂③ (予習)「柿本人麻呂歌集」について基本的な事項を確認しておく。(120分～) (復習)人麻呂歌集の歌のなかで自分の関心に合う歌を選び、その意味を考察する。(120分～)	
10.	山上憶良 (予習)「日本挽歌」の前置漢詩文、歌の解釈を確認しておく。(120分～) (復習)山上憶良の『万葉集』における特異性についてまとめておく。(120分～)		

	11.	大伴旅人 (予習)「讀酒歌」の解釈を確認し、どのような場面がうたわれているか考える。(120分～) (復習)大伴旅人とその周辺の歌人たちとの関係を整理する。(120分～)
	12.	大伴坂上郎女 (予習)「尼理願挽歌」の解釈を確認しておく。(120分～) (復習)大伴坂上郎女が後の歌人たちにどのような影響を与えたか整理する。(120分～)
	13.	大伴家持① (予習)家持の「亡妾悲傷歌」の解釈を確認し、それ以前の歌との関係を考える。(120分～) (復習)大伴家持が人麻呂や憶良の影響を受けていることを確かめる。(120分～)
	14.	大伴家持② (予習)家持の「世間無常歌」の解釈を確認しておく。(120分～) (復習)『万葉集』末三巻に何が示されているかを考える。(120分～)

留意事項	くれぐれも、出席して、座って聞いているだけにならないように注意すること。配布された資料を持参することももちろん、ノートを用意して授業の内容をまとめ、それに自分で調べた内容を書き加えてゆくことを、強く推奨します。自分の手元で知識や思考を蓄積し、いつでもそれを確認できるようにしておいてください。
------	--

教科書 (購入必要)	1.	書籍名 著者 出版社 その他、教科書に関する履修学生への連絡事項 紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)	万葉集 佐竹昭広・木下正俊・小島憲之 瑞書房 『万葉集』のすべての歌が確認できるものであれば結構ですが、一冊で原文・訓が確認できるものとして、本書を薦めます。	ISBN(13桁)	978-4-8273-	
	2.	書籍名 著者 出版社 その他、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公開)		ISBN(13桁)		
	3.	書籍名 著者 出版社 その他、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公開)		ISBN(13桁)		
	4.	書籍名 著者 出版社 その他、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公開)		ISBN(13桁)		
	5.	書籍名 著者 出版社 その他、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公開)		ISBN(13桁)		

参考図書 (任意購入)	1.	出版社 参考図書に 関する履修 学生への通 書籍名 著者	ISBN(13桁)
	2.	出版社 参考図書に 関する履修 学生への通 書籍名 著者	ISBN(13桁)
	3.	出版社 参考図書に 関する履修 学生への通 書籍名 著者	ISBN(13桁)
	4.	出版社 参考図書に 関する履修 学生への通 書籍名 著者	ISBN(13桁)
	5.	出版社 参考図書に 関する履修 学生への通 書籍名 著者	ISBN(13桁)
その他 (配布教材等により購入不 要)	1.	配布教材等 に関する履 修学生への 通書籍名 著者	
	2.	配布教材等 に関する履 修学生への 通書籍名 著者	
	3.	配布教材等 に関する履 修学生への 通書籍名 著者	
	4.	配布教材等 に関する履 修学生への 通書籍名 著者	
	5.	配布教材等 に関する履 修学生への 通書籍名 著者	
参考URL	1.	webサイト名 URL 参考URLに 関する履修 学生への通	
	2.	webサイト名 URL 参考URLに 関する履修 学生への通	
	3.	webサイト名 URL 参考URLに 関する履修 学生への通	
	4.	webサイト名 URL 参考URLに 関する履修 学生への通	
	5.	webサイト名 URL 参考URLに 関する履修 学生への通	
実務経験のある教員等による授業科目 (実践的教育を行う授業科目)	実践的教育を行う授業科目の種別		対象
	a. 実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目 担当教員の実務経験(経歴・資格等)		
授業内容との関連性			
b. 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目 学外講師の経歴・資格等			

	授業内容との関連性
	c. 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目 実習先・実習の目的
備考	

年度	2026
講義名	日本文学特講Ⅳ(江戸時代の作家と作品)
担当教員	三浦 一郎
開講キャンパス	武蔵野
授業の実施形態	対面／Face-to-Face
集中授業	
開講学年	2年生
単位数	2
授業の方法	講義
使用言語	日本語

授業概要	近世文学には実に多種多様なジャンルがあるが、この授業ではその入門編として、近世文学を代表する芭蕉、西鶴、近松の作品を中心に取上げて、一つずつ丁寧に読解する。具体的には、俳諧・俳文、浮世草子、浄瑠璃などの作品を扱い、それぞれの特徴と魅力を学ぶ。
------	---

知識・専門性の到達目標	近世文学に親しみ、作品の特徴や魅力について理解を深めている。また、実際に作品を読み進める中で、その理解のために必要な基礎知識を身につけている。【教養・基礎力】
-------------	---

関心・態度・人格の到達目標	
---------------	--

思考力・判断力の到達目標	近世文学について、漠然としたイメージや思い込みではなく、個々の作品の具体的な表現に基づいて関心の幅を自ら積極的に広げていく姿勢と意欲を身につけている。【課題発見力】 また、本文を表現に即して丁寧に読解し、思い込みによらずに鑑賞する方法の基礎を身につけている。【情報分析力・論理的思考力】
--------------	--

交感力・発信力の到達目標	本文を表現に即して丁寧に読解し、思い込みによらずに鑑賞して、その魅力を人に説得的に伝える方法の基礎を身につけている。【表現力】
--------------	---

「響学スパイラル」取り組み方法	【問う】各回の授業で取り上げる作家と作品について、どこにその特質や魅力があるか、それは作品のどこから言えるのか、作品本文の中に具体的に手がかりとなる表現や設定を見出だす。 【考動する】上記の表現や設定からどのようなことがわかるのか、配布された本文資料や参考資料を参考にしながら、自分で事前に調べ考えて、言語化する。 【カタチにする】各回の授業で取り上げる作家と作品について、自ら問いを立てて事前に調べ考えたことをメモなどにまとめ、理解が不十分な点や疑問に思う点等が整理された状態で授業に臨む。 【見つめ直す】授業での解説を聞き、自分の考えに足りなかったこと、見えていなかったこと、また誤解や思い込みがなかったかを確認し、あれば適切な形に理解を修正する。その積み重ねによって、江戸時代の文学に対する理解を深めていく。
-----------------	--

授業における「アクティブな知」の要素	授業手法	
		対象
A: 課題解決型学習(PBL)企業、自治体等との連携あり	-	
B: 課題解決型学習(PBL)連携なし	-	
C: 反転授業(知識習得を授業外で行い、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	-	
D: 討議(ディスカッション、ディベート等)	-	
E: グループワーク	-	
F: 発表(プレゼンテーション)	-	
G: 実習、フィールドワーク	-	
H: 双方向授業(ICT活用なし: 対話型、リアクションペーパー等)	-	
I: 双方向授業(ICT活用あり: クリッカー、タブレット、スマートフォン等)	○	
J: 講義のみ	-	
K: その他	-	

授業における「ICTの活用」について	活用形態	
		対象
A: ノートPC必携	○	
B: 講義資料や授業教材のオンライン配信	○	
C: レポート課題等のオンライン提出	○	
D: 質問やレポート課題等へのフィードバックにおける学修管理システムの活用(学修支援システム(Course Power)、Google Classroom、Teams等)	○	
E: オンラインメディアの活用(e-Learning、edX、Coursera、JMOOC等のOpen Educational Resources)	-	
F: Zoom、Google Meet等のミーティングツールの活用	-	
G: その他	-	

予習(事前学修)	各授業 【平均】分	事前に配布された作品の本文資料と参考資料に目を通し、わからない語句や事項について、『日本国語大辞典』『日本古典文学大辞典』などの辞典・事典類を見ればわかる範囲のことは自分で事前に調べ、整理しておく。
----------	--------------	---

復習 (事後学修)	各授業	講義内容を振り返り、要点をまとめる。	
	[平均]分	また、授業を受けて興味関心を持った点、あるいは疑問点や理解が不十分な点を書き出す。以上の内容を授業後のコメントとして、クラスルームの所定のスレッドを通じて提出し、次回以降の授業でフィードバックできるようにする。	
成績評価	評価項目	評価項目の詳細内容	割合
	課題提出(レポート)	期末に成績評価レポート(4,000字程度)を提出する。	60%
	小テスト		0%
	試験		0%
	実習・学外学修活動		0%
	その他	授業に関するコメント(200~400字程度)を毎回の授業後に、クラスルームを通じて提出する。出欠の確認を兼ねる。	40%
授業計画	授業回	内容	
	1.	ガイダンス(授業の進め方、成績評価基準、近世文学を理解するための基礎知識など) 芭蕉の俳諧・俳文1 〈予習(100分)〉『日本古典文学大辞典』で、芭蕉、西鶴、近松とその作品についてどのように説明しているか調べておく。 〈復習(100分)〉授業を受けて興味関心を持った点や、疑問を持った点などについて書き出し、授業後のコメントとして指定の期日までに提出する。(コメントの提出や授業資料の共有のために、この授業ではGoogle Classroomを利用する。)	
	2.	芭蕉の俳諧・俳文2 〈予習(100分)〉事前に配布された本文資料や授業資料に目を通して大意を把握し、疑問点を自分なりに整理しておく。 〈復習(100分)〉授業を受けて興味関心を持った点や、疑問を持った点などについて書き出し、授業後のコメントとして指定の期日までに提出する。	
	3.	芭蕉の俳諧・俳文3 〈予習(100分)〉事前に配布された本文資料や授業資料に目を通して大意を把握し、疑問点を自分なりに整理しておく。 〈復習(100分)〉授業を受けて興味関心を持った点や、疑問を持った点などについて書き出し、授業後のコメントとして指定の期日までに提出する。	
	4.	芭蕉の俳諧・俳文4 〈予習(100分)〉事前に配布された本文資料や授業資料に目を通して大意を把握し、疑問点を自分なりに整理しておく。 〈復習(100分)〉授業を受けて興味関心を持った点や、疑問を持った点などについて書き出し、授業後のコメントとして指定の期日までに提出する。	
	5.	芭蕉の俳諧・俳文5 〈予習(100分)〉事前に配布された本文資料や授業資料に目を通して大意を把握し、疑問点を自分なりに整理しておく。 〈復習(100分)〉授業を受けて興味関心を持った点や、疑問を持った点などについて書き出し、授業後のコメントとして指定の期日までに提出する。	
	6.	西鶴の浮世草子1 〈予習(100分)〉事前に配布された本文資料や授業資料に目を通して大意を把握し、疑問点を自分なりに整理しておく。 〈復習(100分)〉授業を受けて興味関心を持った点や、疑問を持った点などについて書き出し、授業後のコメントとして指定の期日までに提出する。	
	7.	西鶴の浮世草子2 〈予習(100分)〉事前に配布された本文資料や授業資料に目を通して大意を把握し、疑問点を自分なりに整理しておく。 〈復習(100分)〉授業を受けて興味関心を持った点や、疑問を持った点などについて書き出し、授業後のコメントとして指定の期日までに提出する。	
	8.	西鶴の浮世草子3 〈予習(100分)〉事前に配布された本文資料や授業資料に目を通して大意を把握し、疑問点を自分なりに整理しておく。 〈復習(100分)〉授業を受けて興味関心を持った点や、疑問を持った点などについて書き出し、授業後のコメントとして指定の期日までに提出する。	
	9.	西鶴の浮世草子4 〈予習(100分)〉事前に配布された本文資料や授業資料に目を通して大意を把握し、疑問点を自分なりに整理しておく。 〈復習(100分)〉授業を受けて興味関心を持った点や、疑問を持った点などについて書き出し、授業後のコメントとして指定の期日までに提出する。	

		復習(100分)授業を受けて興味関心を持った点や、疑問を持った点などについて書き出し、授業後のコメントとして指定の期日までに提出する。
10.	西鶴の浮世草子5	<p>〈予習(100分)〉事前に配布された本文資料や授業資料に目を通して大意を把握し、疑問点を自分なりに整理しておく。</p> <p>〈復習(100分)〉授業を受けて興味関心を持った点や、疑問を持った点などについて書き出し、授業後のコメントとして指定の期日までに提出する。</p>
11.	近松の浄瑠璃1	<p>〈予習(100分)〉事前に配布された本文資料や授業資料に目を通して大意を把握し、疑問点を自分なりに整理しておく。</p> <p>〈復習(100分)〉授業を受けて興味関心を持った点や、疑問を持った点などについて書き出し、授業後のコメントとして指定の期日までに提出する。</p>
12.	近松の浄瑠璃2	<p>〈予習(100分)〉事前に配布された本文資料や授業資料に目を通して大意を把握し、疑問点を自分なりに整理しておく。</p> <p>〈復習(100分)〉授業を受けて興味関心を持った点や、疑問を持った点などについて書き出し、授業後のコメントとして指定の期日までに提出する。</p>
13.	近松の浄瑠璃3	<p>〈予習(100分)〉事前に配布された本文資料や授業資料に目を通して大意を把握し、疑問点を自分なりに整理しておく。</p> <p>〈復習(100分)〉授業を受けて興味関心を持った点や、疑問を持った点などについて書き出し、授業後のコメントとして指定の期日までに提出する。</p>
14.	近松の浄瑠璃4	<p>〈予習(100分)〉事前に配布された本文資料や授業資料に目を通して大意を把握し、疑問点を自分なりに整理しておく。</p> <p>〈復習(100分)〉授業を受けて興味関心を持った点や、疑問を持った点などについて書き出し、授業後のコメントとして指定の期日までに提出する。</p> <p>また全14回の授業を通じて、改めて疑問点や理解が十分ではない点がないかを確認し、それらがあるのであれば、先延ばしにもうやむやにもせず、担当教員に質問してきちんと疑問を解消する。</p>

留意事項	<p>出欠はコメントの提出によって確認する。 遅刻は2回で欠席1回と数える。それも含めて、5回以上欠席した学生に単位は認定しない。 また、期末レポートを期限までに提出しなかった場合も単位は認定しない。</p>
------	--

教科書 (購入必要)	1.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
	2.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
	3.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
	4.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
	5.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)

<p>参考図書 (任意購入)</p>	<table border="1"> <tr> <td>1.</td> <td>書籍名 著者 出版社</td> <td>ISBN(13桁)</td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td>書籍名 著者 出版社</td> <td>ISBN(13桁)</td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>書籍名 著者 出版社</td> <td>ISBN(13桁)</td> </tr> <tr> <td>4.</td> <td>書籍名 著者 出版社</td> <td>ISBN(13桁)</td> </tr> <tr> <td>5.</td> <td>書籍名 著者 出版社</td> <td>ISBN(13桁)</td> </tr> </table>	1.	書籍名 著者 出版社	ISBN(13桁)	2.	書籍名 著者 出版社	ISBN(13桁)	3.	書籍名 著者 出版社	ISBN(13桁)	4.	書籍名 著者 出版社	ISBN(13桁)	5.	書籍名 著者 出版社	ISBN(13桁)
1.	書籍名 著者 出版社	ISBN(13桁)														
2.	書籍名 著者 出版社	ISBN(13桁)														
3.	書籍名 著者 出版社	ISBN(13桁)														
4.	書籍名 著者 出版社	ISBN(13桁)														
5.	書籍名 著者 出版社	ISBN(13桁)														
<p>その他 (配布教材等により購入不要)</p>	<table border="1"> <tr> <td>1.</td> <td>配布教材等に関する履修学生への連絡事項</td> <td>本文資料や授業資料、参考資料などはPDFにして、オンライン(グーグルクラスルームを利用)で事前にデータを共有する。そのため、教科書を購入する必要は無い。その他、必要に応じて参考文献を授業時間内に紹介する。</td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td>配布教材等に関する履修学生への連絡事項</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>配布教材等に関する履修学生への連絡事項</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4.</td> <td>配布教材等に関する履修学生への連絡事項</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5.</td> <td>配布教材等に関する履修学生への連絡事項</td> <td></td> </tr> </table>	1.	配布教材等に関する履修学生への連絡事項	本文資料や授業資料、参考資料などはPDFにして、オンライン(グーグルクラスルームを利用)で事前にデータを共有する。そのため、教科書を購入する必要は無い。その他、必要に応じて参考文献を授業時間内に紹介する。	2.	配布教材等に関する履修学生への連絡事項		3.	配布教材等に関する履修学生への連絡事項		4.	配布教材等に関する履修学生への連絡事項		5.	配布教材等に関する履修学生への連絡事項	
1.	配布教材等に関する履修学生への連絡事項	本文資料や授業資料、参考資料などはPDFにして、オンライン(グーグルクラスルームを利用)で事前にデータを共有する。そのため、教科書を購入する必要は無い。その他、必要に応じて参考文献を授業時間内に紹介する。														
2.	配布教材等に関する履修学生への連絡事項															
3.	配布教材等に関する履修学生への連絡事項															
4.	配布教材等に関する履修学生への連絡事項															
5.	配布教材等に関する履修学生への連絡事項															
<p>参考URL</p>	<table border="1"> <tr> <td>1.</td> <td>webサイト名 URL</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td>webサイト名 URL</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>webサイト名 URL</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4.</td> <td>webサイト名 URL</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5.</td> <td>webサイト名 URL</td> <td></td> </tr> </table>	1.	webサイト名 URL		2.	webサイト名 URL		3.	webサイト名 URL		4.	webサイト名 URL		5.	webサイト名 URL	
1.	webサイト名 URL															
2.	webサイト名 URL															
3.	webサイト名 URL															
4.	webサイト名 URL															
5.	webサイト名 URL															
	<table border="1"> <tr> <td colspan="2">実践的教育を行う授業科目の種別</td> <td>対象</td> </tr> <tr> <td colspan="2">a. 実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目 担当教員の实務経験(経歴・資格等)</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td colspan="3">授業内容との関連性</td> </tr> </table>	実践的教育を行う授業科目の種別		対象	a. 実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目 担当教員の实務経験(経歴・資格等)		-	授業内容との関連性								
実践的教育を行う授業科目の種別		対象														
a. 実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目 担当教員の实務経験(経歴・資格等)		-														
授業内容との関連性																

実務経験のある教員等による授業科目 (実践的教育を行う授業科目)		
	b. 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	-
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容との関連性	
	c. 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	-
	実習先・実習の目的	
備考		

年度	2026
講義名	日本文学特講VI(戦前・戦後の作家と作品)
担当教員	掛野 剛史
開講キャンパス	武蔵野
授業の実施形態	対面／Face-to-Face
集中授業	
開講学年	2年生
単位数	2
授業の方法	講義
使用言語	日本語

授業概要	<p>横光利一(1898～1947)の文学を考える。時代の最前線を駆け抜けた作家横光利一の残した作品のうち、「御身」(1924)から「微笑」(1948)まで7作品を取り上げ、考察していく。これらの作品が発表された約25年間は、文学においても社会においても大きな変革期にあたり、特に同時代の文学状況、社会状況に敏感に反応した横光利一の作品は、そうした影響を色濃く受け、作品ごとにその印象を大きく変えている。授業を通して、文学研究の基礎を学ぶことで、作品から何をどのように読み解くことができるのか。そのことがどのような意味を持つのかといった問題について理解を深めていく。</p> <p>ただ授業を聞いているだけでは意味がない。実際に自分で作品を読むこと、自分で考えること、そしてそのことを形にすることが重要になる授業である。</p>
------	--

知識・専門性の到達目標	戦前・戦後の作家と作品を学ぶことを通じて、文学研究の方法を学ぶとともに、基礎的な読解力を身につけている。【教養・基礎力】
関心・態度・人格の到達目標	実証的な調査と客観的かつ論理的な思考、創造的な発想、構成力のある表現の重要性を認識できる。【主体性・実行力】
思考力・判断力の到達目標	文学を通しての読解を通して、戦前戦後の日本社会を批評的に対象化し、既存の概念や先入観にとらわれない大胆な発想力を育むことができる。【課題発見力】【創造的思考力】
交感力・発信力の到達目標	

「響学スパイラル」取り組み方法	<p>【問う】作品を読み込み、分析のポイントや自分なりの視点を見つける。 【考動する】分析し、考察したことと対照させながら、予習を行うとともに、能動的に授業を受け、自分の読みを見つめなおす。 【カタチにする】分析し考察したことをもとに、授業で学んだことを取り込みながら、授業内でのコメントやレポートにまとめる。 【見つめ直す】受講者の意見や授業の内容を踏まえて、さらに考察を深める。</p>
-----------------	--

授業手法		対象
A: 課題解決型学習(PBL)企業、自治体等との連携あり		-
B: 課題解決型学習(PBL)連携なし		-
C: 反転授業(知識習得を授業外で行い、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		-
D: 討議(ディスカッション、ディベート等)		○
E: グループワーク		○
F: 発表(プレゼンテーション)		-
G: 実習、フィールドワーク		-
H: 双方向授業(ICT活用なし:対話型、リアクションペーパー等)		○
I: 双方向授業(ICT活用あり:クリッカー、タブレット、スマートフォン等)		○
J: 講義のみ		-
K: その他		-

活用形態		対象
A: ノートPC必携		○
B: 講義資料や授業教材のオンライン配信		○
C: レポート課題等のオンライン提出		○
D: 質問やレポート課題等へのフィードバックにおける学修管理システムの活用(学修支援システム(Course Power)、Google Classroom、Teams等)		○
E: オンラインメディアの活用(e-Learning、edX、Coursera、JMOOC等のOpen Educational Resources)		○
F: Zoom、Google Meet等のミーティングツールの活用		-
G: その他		-

予習(事前学修)	<table border="1"> <tr><td>各授業</td><td>事前に指定された作品を読み、意見を言えるようにしておく。</td></tr> <tr><td>[平均60]分</td><td>小テストがある回は小テストに備える。</td></tr> </table>	各授業	事前に指定された作品を読み、意見を言えるようにしておく。	[平均60]分	小テストがある回は小テストに備える。
各授業	事前に指定された作品を読み、意見を言えるようにしておく。				
[平均60]分	小テストがある回は小テストに備える。				

復習(事後学修)	<table border="1"> <tr><td>各授業</td><td>授業内容を振り返り、レポートに備える。</td></tr> <tr><td>[平均60]分</td><td></td></tr> </table>	各授業	授業内容を振り返り、レポートに備える。	[平均60]分	
各授業	授業内容を振り返り、レポートに備える。				
[平均60]分					

成績評価	評価項目	評価項目の詳細内容	割合
	課題提出(レポート)	期末レポート	30%
	小テスト	小テスト: 作品についての理解度チェック(全7回)	35%
	試験		0%
	実習・学外学修活動		0%
	その他	授業後のコメント	35%
授業計画	授業回	内容	
	1.	授業のねらい、横光利一について 予習(60分)＝テキストに収録されている作品をながめておく。 復習(60分)＝授業のねらいを理解し、指示された作品を読み込み、小テストに備える。	
	2.	横光利一「御身」について 予習(60分)＝指示された作品を読み込み、小テストに備える。 復習(60分)＝授業内容を振り返り、関連資料を図書館等で調査し、読んでおく。	
	3.	横光利一「御身」について 予習(60分)＝授業内容を振り返り、関連資料を図書館等で調査し、読んでおく。 復習(60分)＝授業内容を振り返り、関連資料を図書館等で調査し、読んでおく。	
	4.	横光利一「春は馬車に乗って」について 予習(60分)＝指示された作品を読み込み、小テストに備える。 復習(60分)＝授業内容を振り返り、関連資料を図書館等で調査し、読んでおく。	
	5.	横光利一「春は馬車に乗って」について 予習(60分)＝授業内容を振り返り、関連資料を図書館等で調査し、読んでおく。 復習(60分)＝授業内容を振り返り、関連資料を図書館等で調査し、読んでおく。	
	6.	横光利一「機械」について 予習(60分)＝指示された作品を読み込み、小テストに備える。 復習(60分)＝授業内容を振り返り、関連資料を図書館等で調査し、読んでおく。	
	7.	横光利一「機械」について 予習(60分)＝授業内容を振り返り、関連資料を図書館等で調査し、読んでおく。 復習(60分)＝授業内容を振り返り、関連資料を図書館等で調査し、読んでおく。	
	8.	横光利一「比叡」について 予習(60分)＝指示された作品を読み込み、小テストに備える。 復習(60分)＝授業内容を振り返り、関連資料を図書館等で調査し、読んでおく。	
	9.	横光利一「比叡」について 予習(60分)＝授業内容を振り返り、関連資料を図書館等で調査し、読んでおく。 復習(60分)＝授業内容を振り返り、関連資料を図書館等で調査し、読んでおく。	
10.	横光利一「睡蓮」について 予習(60分)＝指示された作品を読み込み、小テストに備える。 復習(60分)＝授業内容を振り返り、関連資料を図書館等で調査し、読んでおく。		

	11.	横光利一「嬰粟の中」について 予習(60分)＝指示された作品を読み込み、小テストに備える。 復習(60分)＝授業内容を振り返り、関連資料を図書館等で調査し、読んでおく。
	12.	横光利一「嬰粟の中」について 予習(60分)＝授業内容を振り返り、関連資料を図書館等で調査し、読んでおく。 復習(60分)＝授業内容を振り返り、関連資料を図書館等で調査し、読んでおく。
	13.	横光利一「微笑」について 予習(60分)＝指示された作品を読み込み、小テストに備える。 復習(60分)＝授業内容を振り返り、関連資料を図書館等で調査し、読んでおく。
	14.	横光利一「微笑」について 予習(60分)＝授業内容を振り返り、関連資料を図書館等で調査し、読んでおく。 復習(60分)＝授業内容を振り返り、関連資料を図書館等で調査し、読んでおく。
留意事項	授業内ではCoursePowerを利用して、小テストの実施、課題の提出を行うので、授業にPCを持参することをお勧めする。	
教科書 (購入必要)	1.	書籍名 機械・春は馬車に乗って 著者 横光利一 出版社 新潮文庫 ISBN(13桁) 9784101002026 その他、教科書に関する履修学生への連絡事項 紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)
	2.	書籍名 著者 出版社 ISBN(13桁) その他、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公開)
	3.	書籍名 著者 出版社 ISBN(13桁) その他、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公開)
	4.	書籍名 著者 出版社 ISBN(13桁) その他、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公開)
	5.	書籍名 著者 出版社 ISBN(13桁) その他、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公開)
		書籍名 横光利一(新潮日本文学アルバム) 著者 出版社 新潮社 ISBN(13桁) 9784106206474

参考図書 (任意購入)	1.	参考図書に関する履修学生への連絡事項	
		書籍名	横光利一の文学世界
		著者	
		出版社	翰林書房 ISBN(13桁) 9784877372279
	2.	参考図書に関する履修学生への連絡事項	
		書籍名	横光利一事典
		著者	
		出版社	おうふう ISBN(13桁) 9784273032432
	3.	参考図書に関する履修学生への連絡事項	
		書籍名	横光利一欧州との出会い
		著者	
		出版社	おうふう ISBN(13桁) 9784273035327
	4.	参考図書に関する履修学生への連絡事項	
		書籍名	
		著者	
5.	参考図書に関する履修学生への連絡事項		
	書籍名		
	著者		
	出版社	ISBN(13桁)	
その他 (配布教材等により購入不要)	1.	配布教材等に関する履修学生への連絡事項	
	2.	配布教材等に関する履修学生への連絡事項	
	3.	配布教材等に関する履修学生への連絡事項	
	4.	配布教材等に関する履修学生への連絡事項	
	5.	配布教材等に関する履修学生への連絡事項	
		配布教材等に関する履修学生への連絡事項	
参考URL	1.	webサイト名	
		URL	
		参考URLに関する履修学生への連絡事項	
	2.	webサイト名	
		URL	
		参考URLに関する履修学生への連絡事項	
	3.	webサイト名	
		URL	
		参考URLに関する履修学生への連絡事項	
	4.	webサイト名	
		URL	
		参考URLに関する履修学生への連絡事項	
	5.	webサイト名	
		URL	
		参考URLに関する履修学生への連絡事項	
	実践的教育を行う授業科目の種別		対象
	a. 実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目 担当教員の実務経験(経歴・資格等)		-
	授業内容との関連性		

実務経験のある教員等による授業科目 (実践的教育を行う授業科目)		
	b. 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	-
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容との関連性	
	c. 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	-
	実習先・実習の目的	
備考		

年度	2026
講義名	日本文学研究 I (奈良時代の文学と文化)
担当教員	大島 武宙
開講キャンパス	武蔵野
授業の実施形態	対面 / Face-to-Face
集中授業	
開講学年	3 年生
単位数	2
授業の方法	講義
使用言語	日本語

授業概要	<p>「鬱」の上代文学 近現代の文学作品には、憂鬱な心情や憂鬱な人物がよく登場しますが、それ以前の古典文学にも「鬱」の状態は登場します。『万葉集』を中心に、恋の悩み、政治的な不遇、病気や老いへの不安、もっと根源的な生に対する絶望など、さまざまな「鬱」の様相を見てゆき、現代社会における「鬱」とどう向き合うか、考えるきっかけにもなればと思います。</p>
------	---

知識・専門性の到達目標	奈良時代以前の文学における歌や散文の形式についての知識を習得している。【教養・基礎力】
関心・態度・人格の到達目標	奈良時代以前の文学について、その歴史的背景や習俗の面から理解することを試み、具体的な表現について考察すべき問題を発見することができる。【他者理解力・主体性】
思考力・判断力の到達目標	奈良時代以前の歌や散文の諸表現について、先行する研究を参照・整理したうえで自分の意見をまとめることができる。【情報分析力・論理的思考力】【課題発見力】
交感力・発信力の到達目標	奈良時代以前の歌や散文の諸表現について、注釈書類を参照したうえで自分の言葉でその解釈や意義をわかりやすくまとめることができる。【表現力】

「響学スパイラル」取り組み方法	<p>講義を聞いて、その内容をしっかりと理解することも大切ですが、自分で理解できたと思うことと、その内容をふたたび自分で話したり、文章に書いたりして他人に伝えられることは、実は大きく違っています。この授業では、授業後のリアクションペーパーの配布、回収や、その内容の共有、さらにそれに対する感想や批評を述べる機会の確保を通じて、教員と学生間の意見交換はもちろん、学生間の議論も促したいと考えています。</p>
-----------------	---

授業における「アクティブな知」の要素	<table border="1"> <thead> <tr><th>授業手法</th><th>対象</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>A: 課題解決型学習 (PBL) 企業、自治体等との連携あり</td><td>-</td></tr> <tr><td>B: 課題解決型学習 (PBL) 連携なし</td><td>-</td></tr> <tr><td>C: 反転授業 (知識習得を授業外で行い、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)</td><td>-</td></tr> <tr><td>D: 討議 (ディスカッション、ディベート等)</td><td>-</td></tr> <tr><td>E: グループワーク</td><td>-</td></tr> <tr><td>F: 発表 (プレゼンテーション)</td><td>-</td></tr> <tr><td>G: 実習、フィールドワーク</td><td>-</td></tr> <tr><td>H: 双方向授業 (ICT活用なし: 対話型、リアクションペーパー等)</td><td>○</td></tr> <tr><td>I: 双方向授業 (ICT活用あり: クリッカー、タブレット、スマートフォン等)</td><td>-</td></tr> <tr><td>J: 講義のみ</td><td>○</td></tr> <tr><td>K: その他</td><td>-</td></tr> </tbody> </table>	授業手法	対象	A: 課題解決型学習 (PBL) 企業、自治体等との連携あり	-	B: 課題解決型学習 (PBL) 連携なし	-	C: 反転授業 (知識習得を授業外で行い、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	-	D: 討議 (ディスカッション、ディベート等)	-	E: グループワーク	-	F: 発表 (プレゼンテーション)	-	G: 実習、フィールドワーク	-	H: 双方向授業 (ICT活用なし: 対話型、リアクションペーパー等)	○	I: 双方向授業 (ICT活用あり: クリッカー、タブレット、スマートフォン等)	-	J: 講義のみ	○	K: その他	-
	授業手法	対象																							
	A: 課題解決型学習 (PBL) 企業、自治体等との連携あり	-																							
	B: 課題解決型学習 (PBL) 連携なし	-																							
	C: 反転授業 (知識習得を授業外で行い、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	-																							
	D: 討議 (ディスカッション、ディベート等)	-																							
	E: グループワーク	-																							
	F: 発表 (プレゼンテーション)	-																							
	G: 実習、フィールドワーク	-																							
	H: 双方向授業 (ICT活用なし: 対話型、リアクションペーパー等)	○																							
	I: 双方向授業 (ICT活用あり: クリッカー、タブレット、スマートフォン等)	-																							
	J: 講義のみ	○																							
	K: その他	-																							

授業における「ICTの活用」について	<table border="1"> <thead> <tr><th>活用形態</th><th>対象</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>A: ノートPC必携</td><td>-</td></tr> <tr><td>B: 講義資料や授業教材のオンライン配信</td><td>-</td></tr> <tr><td>C: レポート課題等のオンライン提出</td><td>○</td></tr> <tr><td>D: 質問やレポート課題等へのフィードバックにおける学修管理システムの活用 (学修支援システム (Course Power)、Google Classroom、Teams 等)</td><td>-</td></tr> <tr><td>E: オンラインメディアの活用 (e-Learning、edX、Coursera、JMOOC 等の Open Educational Resources)</td><td>-</td></tr> <tr><td>F: Zoom、Google Meet 等のミーティングツールの活用</td><td>-</td></tr> <tr><td>G: その他</td><td>-</td></tr> </tbody> </table>	活用形態	対象	A: ノートPC必携	-	B: 講義資料や授業教材のオンライン配信	-	C: レポート課題等のオンライン提出	○	D: 質問やレポート課題等へのフィードバックにおける学修管理システムの活用 (学修支援システム (Course Power)、Google Classroom、Teams 等)	-	E: オンラインメディアの活用 (e-Learning、edX、Coursera、JMOOC 等の Open Educational Resources)	-	F: Zoom、Google Meet 等のミーティングツールの活用	-	G: その他	-
	活用形態	対象															
	A: ノートPC必携	-															
	B: 講義資料や授業教材のオンライン配信	-															
	C: レポート課題等のオンライン提出	○															
	D: 質問やレポート課題等へのフィードバックにおける学修管理システムの活用 (学修支援システム (Course Power)、Google Classroom、Teams 等)	-															
	E: オンラインメディアの活用 (e-Learning、edX、Coursera、JMOOC 等の Open Educational Resources)	-															
	F: Zoom、Google Meet 等のミーティングツールの活用	-															
G: その他	-																

予習 (事前学修)	<table border="1"> <tr><td>各授業</td><td rowspan="2">予告された次回の授業内容について、自分の知識をまとめ、関心に沿って簡単に調査しておく。</td></tr> <tr><td>[60] 分</td></tr> </table>	各授業	予告された次回の授業内容について、自分の知識をまとめ、関心に沿って簡単に調査しておく。	[60] 分
各授業	予告された次回の授業内容について、自分の知識をまとめ、関心に沿って簡単に調査しておく。			
[60] 分				

復習 (事後学修)	<table border="1"> <tr><td>各授業</td><td rowspan="2">授業内容をふり返り、疑問点などを整理する。授業で説明された内容とは異なる説がないかを確認し、比較検討を試みる。</td></tr> <tr><td>[120] 分</td></tr> </table>	各授業	授業内容をふり返り、疑問点などを整理する。授業で説明された内容とは異なる説がないかを確認し、比較検討を試みる。	[120] 分
各授業	授業内容をふり返り、疑問点などを整理する。授業で説明された内容とは異なる説がないかを確認し、比較検討を試みる。			
[120] 分				

成績評価	評価項目	評価項目の詳細内容	割合
	課題提出(レポート)	小課題2回と、最終課題を課します。ただし、最終課題は2回の小課題の内容を含んだものとし、小課題への取り組みが活きるように設定する予定です。	100%
	小テスト		0%
	試験		0%
	実習・学外学修活動		0%
	その他		0%

授業計画	授業回	内容
	1.	上代文学概説①『万葉集』『懐風藻』 (予習) 上代の文学、歴史について復習しておく。(120分～) (復習) 授業の内容を整理し、疑問点をあげる。(120分～)
	2.	上代文学概説②『古事記』『日本書紀』 (予習) 上代の文学作品について、特徴をまとめておく。(120分～) (復習) 授業の内容を整理し、疑問点をあげる。(120分～)
	3.	古典文学の鬱① (予習) 古典文学の作品のなかで、三角関係をあつかったものを調べる、思い出す。(120分～) (復習) 授業の内容を整理し、疑問点をあげる。(120分～)
	4.	古典文学の鬱② (予習) 古典文学の作品のなかで、三角関係をあつかったものを調べる、思い出す。(120分～) (復習) 授業の内容を整理し、疑問点をあげる。(120分～)
	5.	『万葉集』の鬱①三角関係の悩み (予習) 次回とりあげられる作品を読み、疑問点をあげる。(120分～) (復習) 授業の内容を整理し、疑問点をあげる。(120分～)
	6.	『万葉集』の鬱②片思いの悩み (予習) 次回とりあげられる作品を読み、疑問点をあげる。(120分～) (復習) 授業の内容を整理し、疑問点をあげる。(120分～)
	7.	『万葉集』の鬱③板挟みの苦しみ (予習) 次回とりあげられる作品を読み、疑問点をあげる。(120分～) (復習) 授業の内容を整理し、疑問点をあげる。(120分～)
	8.	『万葉集』の鬱④政治上の不遇 (予習) 次回とりあげられる作品を読み、疑問点をあげる。(120分～) (復習) 授業の内容を整理し、疑問点をあげる。(120分～)
	9.	『万葉集』の鬱⑤老いへの不安 (予習) 次回とりあげられる作品を読み、疑問点をあげる。(120分～) (復習) 授業の内容を整理し、疑問点をあげる。(120分～)
	10.	『万葉集』の鬱⑥生への諦念 (予習) 次回とりあげられる作品を読み、疑問点をあげる。(120分～) (復習) 授業の内容を整理し、疑問点をあげる。(120分～)
	『古事記』の鬱①仲間に入れない (予習) 次回とりあげられる作品を読み、疑問点をあげる。(120分～) (復習) 授業の内容を整理し、疑問点をあげる。(120分～)	

11.	(予習) 次回とりあげられる作品を読み、疑問点をあげる。(120分～) (復習) 授業の内容を整理し、疑問点をあげる。(120分～)
12.	『古事記』の鬱②兄弟間の格差 (予習) 次回とりあげられる作品を読み、疑問点をあげる。(120分～) (復習) 授業の内容を整理し、疑問点をあげる。(120分～)
13.	『古事記』の鬱③認めてもらえない苦しさ (予習) 次回とりあげられる作品を読み、疑問点をあげる。(120分～) (復習) 授業の内容を整理し、疑問点をあげる。(120分～)
14.	『万葉集』と夏目漱石「草枕」—古代の近代の「鬱」 (予習) 次回とりあげられる作品を読み、疑問点をあげる。(120分～) (復習) 授業の内容を整理し、疑問点をあげる。(120分～)

留意事項

くれぐれも、出席して、座って聞いているだけにならないように注意すること。配布された資料を持参することももちろん、ノートを用意して授業の内容をまとめ、それに自分で調べた内容を書き加えてゆくことを、強く推奨します。自分の手元で知識や思考を蓄積し、いつでもそれを確認できるようにしておいてください。

49	1.	書籍名 著者 出版社 その他、教科書に関する履修学生への連絡事項	万葉集 佐竹昭広・木下正俊・小島憲之 塙書房 『万葉集』の歌がすべて確認できる書籍であれば結構です。一冊ですべての歌の原文・訓が確認できるものとして、本書を薦めます。	ISBN(13桁) 978-4-8273-
		紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)		
	2.	書籍名 著者 出版社 その他、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公開)		ISBN(13桁)
	3.	書籍名 著者 出版社 その他、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公開)		ISBN(13桁)
	4.	書籍名 著者 出版社 その他、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公開)		ISBN(13桁)
	5.	書籍名 著者 出版社 その他、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公開)		ISBN(13桁)

1.	書籍名 著者 出版社 参考図書に関する履修学生への連絡事項		ISBN(13桁)
----	--	--	-----------

参考図書 (任意購入)	2.	著者		
		出版社	ISBN(13桁)	
	参考図書に関する履修学生への通			
	3.	書籍名		
		著者		
	出版社	ISBN(13桁)		
		参考図書に関する履修学生への通		
	4.	書籍名		
		著者		
	出版社	ISBN(13桁)		
		参考図書に関する履修学生への通		
	5.	書籍名		
		著者		
	出版社	ISBN(13桁)		
		参考図書に関する履修学生への通		

その他 (配布教材等により購入不要)	1.	配布教材等に関する履修学生への通	
	2.	配布教材等に関する履修学生への通	
	3.	配布教材等に関する履修学生への通	
	4.	配布教材等に関する履修学生への通	
	5.	配布教材等に関する履修学生への通	

参考URL	1.	webサイト名		
		URL		
	参考URLに関する履修学生への通			
	2.	webサイト名		
		URL		
	参考URLに関する履修学生への通			
	3.	webサイト名		
		URL		
	参考URLに関する履修学生への通			
	4.	webサイト名		
		URL		
	参考URLに関する履修学生への通			
	5.	webサイト名		
		URL		
	参考URLに関する履修学生への通			

実践的教育を行う授業科目の種別		対象
実務経験のある教員等による授業科目 (実践的教育を行う授業科目)	a. 実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目 担当教員の実務経験(経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b. 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目 学外講師の経歴・資格等	
授業内容との関連性		

	c. 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目 実習先・実習の目的
備考	

年度	2026
講義名	日本文学研究Ⅳ(江戸時代の文学と文化)
担当教員	三浦 一郎
開講キャンパス	武蔵野
授業の実施形態	対面／Face-to-Face
集中授業	
開講学年	3年生
単位数	2
授業の方法	講義
使用言語	日本語

授業概要	怪異を通じて、自らの「性(さが)」に翻弄され、執着や情念に囚われた人間たちの恐ろしくも哀れな生のありようを描く上田秋成『雨月物語』を精読し、その表現や作品世界の特質を学ぶ。 具体的には所収九編のうち巻一「白峯」、巻二「浅茅が宿」、巻三「吉備津の釜」の三編を主に取り上げる。
------	---

知識・専門性の到達目標	取り上げた作品について、作品世界のありようと表現の特質、およびその主題がこれまでどのように論じられてきたのか、理解を深めている。【教養・基礎力】
関心・態度・人格の到達目標	
思考力・判断力の到達目標	興味ある作品を自ら選び、その特質に迫るために有効なテーマを発見して、そこに自らの見解を提示できる。【課題発見力・課題解決力・創造的思考力】 また、取り上げた作品が、和漢の先行作品から何を受け継ぎ、またどのように発展させたのかを適切に把握できる。【情報分析力・論理的思考力】
交感力・発信力の到達目標	取り上げた作品の特徴と魅力について、論理的、かつ説得的に説明できる。【表現力】

「響学スパイラル」取り組み方法	【問う】各回の授業で取り上げる作品について、どこにその特質や魅力があるか、それは作品ないし関連する資料のどこから言えるのか、作品本文や関連資料の記述の中に具体的に手がかりとなる表現や設定を見出す。 【考動する】上記の表現や設定からどのようなことが言えるのか、配布された本文資料や参考資料を参考にしながら、自分で事前に調べ考えて、言語化する。 【カタチにする】各回の授業で取り上げる作品ないし『雨月物語』全体について、自ら問いを立てて事前に調べ考えたことをメモなどにまとめ、理解が不十分な点や疑問に思う点等が整理された状態で授業に臨む。 【見つめ直す】授業での解説を聞き、自分の考えに足りなかったこと、見えていなかったこと、また誤解や思い込みがなかったかを確認し、あれば適切な形に理解を修正する。その積み重ねによって、授業で取り上げる「白峰」や「浅茅が宿」などの個々の作品、あるいは『雨月物語』全体に対する理解を深めていく。
-----------------	--

授業における「アクティブな知」の要素	授業手法	対象
	A: 課題解決型学習(PBL)企業、自治体等との連携あり	-
	B: 課題解決型学習(PBL)連携なし	-
	C: 反転授業(知識習得を授業外で行い、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	-
	D: 討議(ディスカッション、ディベート等)	-
	E: グループワーク	-
	F: 発表(プレゼンテーション)	-
	G: 実習、フィールドワーク	-
	H: 双方向授業(ICT活用なし:対話型、リアクションペーパー等)	-
	I: 双方向授業(ICT活用あり:クリッカー、タブレット、スマートフォン等)	○
	J: 講義のみ	-
	K: その他	-

授業における「ICTの活用」について	活用形態	対象
	A: ノートPC必携	○
	B: 講義資料や授業教材のオンライン配信	○
	C: レポート課題等のオンライン提出	○
	D: 質問やレポート課題等へのフィードバックにおける学修管理システムの活用 (学修支援システム(Course Power)、Google Classroom、Teams等)	○
	E: オンラインメディアの活用 (e-Learning、edX、Coursera、JMOOC等のOpen Educational Resources)	-
	F: Zoom、Google Meet等のミーティングツールの活用	-
G: その他	-	

予習(事前学修)	各授業	授業で取り上げる予定の作品本文や配布済みの参考資料などに事前に目を通して置く。 わからない語句や事項があるときは、『日本国語大辞典』や『角川古語大辞典』、『日本古典文学大辞典』などで調べ、ノートにまとめておく。
	[平均]分	

	各授業	授業を受けて、興味関心を持った点や、疑問を感じた点を書き出し、授業後のコメントとしてオンラインで提出する。
--	-----	---

復習 (事後学修)	[[平均]]分	特に授業内容について疑問点や理解が不十分な点がある場合、それを放置せずにコメントとして記入し、次回以降の授業でフィードバックできるようにする。
--------------	---------	---

成績評価	評価項目	評価項目の詳細内容	割合
	課題提出(レポート)	期末レポート(4,000字程度)	60%
	小テスト		0%
	試験		0%
	実習・学外学修活動		0%
	その他	授業を受けて興味関心を覚えたこと、疑問に思ったことなどをコメント(300~400字程度)としてまとめ、毎回の授業後にオンライン(-googleクラスルームを利用)で提出する。出欠の確認を兼ねる。	40%

授業回	内容
1.	<p>ガイダンス(授業の進め方、成績評価基準などの説明)、上田秋成と雨月物語についての概説</p> <p><予習(100分)>テキスト9~18ページの『雨月物語』あらすじと、219~258ページの解説を通読しておく。</p> <p><復習(100分)>授業を受けて興味関心を覚えたこと、疑問に思ったことなどをコメントとしてまとめ、指定の期日までにオンライン(-googleクラスルームを利用)で提出する。(コメントの提出について、詳細はガイダンス時に説明する。)</p>
2.	<p>「浅茅が宿」の読解①</p> <p><予習(100分)>テキスト65~85ページ『雨月物語』巻二「浅茅が宿」の作品本文を通読し、意味がとれないところは『日本国語大辞典』や、テキスト以外の『雨月物語』の注釈書などを参考にして、意味がとれるようにしておく。</p> <p>その上で、テキスト65~67ページの範囲について、テキストの脚注や事前に配布・共有した資料などを参照しながら、一つ一つの表現や設定がどのような意味や効果を持つのかを自分なりに考えておく。</p> <p><復習(100分)>授業を受けて興味関心を覚えたこと、疑問に思ったことなどをコメントとしてまとめ、指定の期日までにオンライン(-googleクラスルームを利用)で提出する。</p>
3.	<p>「浅茅が宿」の読解②</p> <p><予習(100分)>テキスト67~69ページの範囲について、テキストの脚注や事前に配布・共有した資料などを参照しながら、一つ一つの表現や設定がどのような意味や効果を持つのかを自分なりに考えておく。</p> <p><復習(100分)><復習>授業を受けて興味関心を覚えたこと、疑問に思ったことなどをコメントとしてまとめ、指定の期日までにオンライン(-googleクラスルームを利用)で提出する。</p>
4.	<p>「浅茅が宿」の読解③</p> <p><予習(100分)>テキスト69~74ページの範囲について、テキストの脚注や事前に配布・共有した資料などを参照しながら、一つ一つの表現や設定がどのような意味や効果を持つのかを自分なりに考えておく。</p> <p><復習(100分)>授業を受けて興味関心を覚えたこと、疑問に思ったことなどをコメントとしてまとめ、指定の期日までにオンライン(-googleクラスルームを利用)で提出する。</p>
5.	<p>「浅茅が宿」の読解④</p> <p><予習(100分)>テキスト74~79ページの範囲について、テキストの脚注や事前に配布・共有した資料などを参照しながら、一つ一つの表現や設定がどのような意味や効果を持つのかを自分なりに考えておく。</p> <p><復習(100分)>授業を受けて興味関心を覚えたこと、疑問に思ったことなどをコメントとしてまとめ、指定の期日までにオンライン(-googleクラスルームを利用)で提出する。</p>
6.	<p>「浅茅が宿」の読解⑤</p> <p><予習(100分)>テキスト79~82ページの範囲について、テキストの脚注や事前に配布・共有した資料などを参照しながら、一つ一つの表現や設定がどのような意味や効果を持つのかを自分なりに考えておく。</p> <p><復習(100分)>授業を受けて興味関心を覚えたこと、疑問に思ったことなどをコメントとしてまとめ、指定の期日までにオンライン(-googleクラスルームを利用)で提出する。</p>
7.	<p>「浅茅が宿」の読解⑥</p> <p><予習(100分)>テキスト82~85ページの範囲について、テキストの脚注や事前に配布・共有した資料などを参照しながら、一つ一つの表現や設定がどのような意味や効果を持つのかを自分なりに考えておく。</p> <p><復習(100分)>授業を受けて興味関心を覚えたこと、疑問に思ったことなどをコメントとしてまとめ、指定の期日までにオンライン(-googleクラスルームを利用)で提出する。</p>
	「白峯」の読解①

授業計画

8.	<p><予習(100分)>テキスト23～42ページ『雨月物語』巻一「白峰」の作品本文を通読し、意味がとれないところは『日本国語大辞典』や『雨月物語』の注釈書を参考にして、意味がとれるようにしておく。 その上で、テキスト23～27ページの範囲について、テキストの脚注や事前に配布・共有した資料などを参照しながら、一つ一つの表現や設定がどのような意味や効果を持つのかを自分なりに考えておく。</p> <p><復習(100分)>授業を受けて興味関心を覚えたこと、疑問に思ったことなどをコメントとしてまとめ、指定の期日までにオンライン(グループクラスルームを利用)で提出する。</p>
9.	<p>「白峯」の読解②</p> <p><予習(100分)>テキスト27～29ページの範囲について、テキストの脚注や事前に配布・共有した資料などを参照しながら、一つ一つの表現や設定がどのような意味や効果を持つのかを自分なりに考えておく。</p> <p><復習(100分)>授業を受けて興味関心を覚えたこと、疑問に思ったことなどをコメントとしてまとめ、指定の期日までにオンライン(グループクラスルームを利用)で提出する。</p>
10.	<p>「白峯」の読解③</p> <p><予習(100分)>テキスト29～34ページの範囲について、テキストの脚注や事前に配布・共有した資料などを参照しながら、一つ一つの表現や設定がどのような意味や効果を持つのかを自分なりに考えておく。</p> <p><復習(100分)>授業を受けて興味関心を覚えたこと、疑問に思ったことなどをコメントとしてまとめ、指定の期日までにオンライン(グループクラスルームを利用)で提出する。</p>
11.	<p>「白峯」の読解④</p> <p><予習(100分)>テキスト34～38ページの範囲について、テキストの脚注や事前に配布・共有した資料などを参照しながら、一つ一つの表現や設定がどのような意味や効果を持つのかを自分なりに考えておく。</p> <p><復習(100分)>授業を受けて興味関心を覚えたこと、疑問に思ったことなどをコメントとしてまとめ、指定の期日までにオンライン(グループクラスルームを利用)で提出する。</p>
12.	<p>「白峯」の読解⑤</p> <p><予習(100分)>テキスト39～42ページの範囲について、テキストの脚注や事前に配布・共有した資料などを参照しながら、一つ一つの表現や設定がどのような意味や効果を持つのかを自分なりに考えておく。</p> <p><復習(100分)>授業を受けて興味関心を覚えたこと、疑問に思ったことなどをコメントとしてまとめ、指定の期日までにオンライン(グループクラスルームを利用)で提出する。</p>
13.	<p>『雨月物語』所収九編相互の関係性①</p> <p><予習(100分)>テキスト116～135ページ『雨月物語』巻三「吉備津の釜」の作品本文を通読し、意味がとれないところは『日本国語大辞典』や『雨月物語』の注釈書を参考にして、意味がとれるようにしておく。 また、第十二回までの授業の要点を再確認した上で、事前に配布・共有した資料で、『雨月物語』所収の九編相互の関係性についての先行研究の概要を把握しておく。</p> <p><復習(100分)>授業を受けて興味関心を覚えたこと、疑問に思ったことなどをコメントとしてまとめ、指定の期日までにオンライン(グループクラスルームを利用)で提出する。 また、授業で取り上げた三編が、その視座や主題などに注目すると相互にどのような関係性を持ちうるのか、自分の意見をまとめる。</p>
14.	<p>『雨月物語』所収九編相互の関係性②・まとめ</p> <p><予習(100分)>これまでの授業内容をノートや授業資料を振り返ることで確認し、自分がよく理解できていないところはどこなのかを自覚できるようにしておく。</p> <p><復習(100分)>授業を受けて興味関心を覚えたこと、疑問に思ったことなどをコメントとしてまとめ、指定の期日までにオンライン(グループクラスルームを利用)で提出する。 また、授業で扱った三編について、自分がよく理解できていないところを放置せず、教員の助言も求めながら確実に理解を深める。</p>

留意事項

<p>出欠は授業後のコメント提出(オンライン)によって確認する。 遅刻は2回で欠席1回と数える。それも含めて、5回以上欠席した学生に単位は認定しない。 また、期末レポートを期限までに提出しなかった学生に単位は認定しない。</p>
--

1.	書籍名	岩波文庫 雨月物語
	著者	上田秋成作、長島弘明校注
	出版社	岩波書店
	ISBN(13桁)	9784003022030
	その他、教科書に関する履修学生への連絡事項	
	紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)	
	書籍名	

教科書 (購入必要)	2.	著者		
		出版社	ISBN(13桁)	
	3.	著者		
		出版社	ISBN(13桁)	
	4.	著者		
		出版社	ISBN(13桁)	
	5.	著者		
		出版社	ISBN(13桁)	
	参考図書 (任意購入)	1.	書籍名	上田秋成研究事典
			著者	秋成研究会編
			出版社	笠間書院 ISBN(13桁) 9784305707901
		2.	書籍名	上田秋成の文学
			著者	長島弘明
			出版社	放送大学教育振興会 ISBN(13桁) 9784595316050
		3.	書籍名	
出版社			ISBN(13桁)	
4.		書籍名		
		出版社	ISBN(13桁)	
5.		書籍名		
		出版社	ISBN(13桁)	
その他 (配布教材等により購入不要)		1.	配布教材等に関する履修学生への連絡事項	参考図書とした『上田秋成研究事典』『上田秋成の文学』は大学図書館に所蔵されている。それら以外の参考資料は、プリントにして配布するか、必要に応じて授業時間内に紹介する。
		2.	配布教材等に関する履修学生への連絡事項	
		3.	配布教材等に関する履修学生への連絡事項	
	4.	配布教材等に関する履修学生への連絡事項		
	5.	配布教材等に関する履修学生への連絡事項		
	6.	配布教材等に関する履修学生への連絡事項		
	1.	webサイト名		
		URL		
		webサイト名		

参考URL	2.	URL 参考URLに 関する履修 学生への連 webサイト名	
	3.	URL 参考URLに 関する履修 学生への連 webサイト名	
	4.	URL 参考URLに 関する履修 学生への連 webサイト名	
	5.	URL 参考URLに 関する履修 学生への連	
実務経験のある教員等による授業科目 (実践的教育を行う授業科目)	実践的教育を行う授業科目の種別		対象
	a. 実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目 担当教員の実務経験(経歴・資格等)		-
	授業内容との関連性		
	b. 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目 学外講師の経歴・資格等		-
	授業内容との関連性		
c. 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目 実習先・実習の目的		-	
備考			

年度	2026
講義名	日本語学特講 I (鎌倉時代以前の日本語)
担当教員	三好 伸芳
開講キャンパス	武蔵野
授業の実施形態	対面 / Face-to-Face
集中授業	
開講学年	2 年生
単位数	2
授業の方法	講義
使用言語	日本語

授業概要	この授業では、古代日本語の変遷を辿りながら、歴史的日本語がどのような体系を有していたのかという点について学ぶ。古代日本語には、現代日本語において失われた独自の特徴が観察され、歴史的に同一の日本語であっても直感的な理解が困難である。現代日本語との対照言語学的観点に十分留意しつつ、古代語においてどのような言語変化が生じたのかを受講者自身で説明できるようになることを目指す。
------	---

知識・専門性の到達目標	日本語の使用者として知っておかなければならない日本語に関する知識を習得し、日本の言語文化の特徴を理解している。【教養・基礎力】
関心・態度・人格の到達目標	
思考力・判断力の到達目標	日本語学を学ぶことにより、日本の歴史や社会と日本語との関係性を学び、言語文化のあり方を主体的に考えることができる思考力を身につける。【情報分析力・論理的思考力】
交感力・発信力の到達目標	日本語の特質を適切なことばで説明し、日本語の表現を歴史的背景を踏まえて分析的に捉えることができる。【表現力・言語運用能力】

「響学スパイラル」取り組み方法	本科目では、古代日本語の変遷を辿ることで、日常的に接する現代日本語からは十分に理解できない日本語の側面や、歴史的日本語に見られる独自の言語的特徴について論じる。そのため、「問う」、「考動する」という「響学スパイラル」の学びを実践していくことになる。
-----------------	--

授業における「アクティブな知」の要素	授業手法		対象
	A: 課題解決型学習 (PBL) 企業、自治体等との連携あり		—
	B: 課題解決型学習 (PBL) 連携なし		—
	C: 反転授業 (知識習得を授業外で行い、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		○
	D: 討議 (ディスカッション、ディベート等)		—
	E: グループワーク		—
	F: 発表 (プレゼンテーション)		—
	G: 実習、フィールドワーク		—
	H: 双方向授業 (ICT活用なし: 対話型、リアクションペーパー等)		○
	I: 双方向授業 (ICT活用あり: クリッカー、タブレット、スマートフォン等)		○
	J: 講義のみ		○
	K: その他		—

授業における「ICTの活用」について	活用形態		対象
	A: ノートPC必携		—
	B: 講義資料や授業教材のオンライン配信		○
	C: レポート課題等のオンライン提出		○
	D: 質問やレポート課題等へのフィードバックにおける学修管理システムの活用 (学修支援システム (Course Power)、Google Classroom、Teams等)		○
	E: オンラインメディアの活用 (e-Learning、edX、Coursera、JMOOC等のOpen Educational Resources)		—
	F: Zoom、Google Meet等のミーティングツールの活用		—
	G: その他		—

予習 (事前学修)	各授業	予習課題について調べてくる。
	[120]分	

復習 (事後学修)	各授業	毎回課される授業課題に取り組んで提出する。
	[120]分	

成績評価	評価項目	評価項目の詳細内容	割合
	課題提出(レポート)		0 %
	小テスト	毎回の授業内試験	80 %
	試験		0 %
	実習・学外学修活動		0 %
	その他	毎回のコメント提出、質疑等を通じての授業参加態度	20 %

授業計画	授業回	内容
	1.	第1回 日本語史における古代語 予習(120分):「古代語」について調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
	2.	第2回 上代の音韻・表記 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
	3.	第3回 上代の語彙 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
	4.	第4回 上代の文法 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
	5.	第5回 中古の音韻・表記(1):音韻体系と仮名 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
	6.	第6回 中古の音韻・表記(2):音韻の変遷 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
	7.	第7回 中古の語彙(1):和文語と漢文訓読語 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
	8.	第8回 中古の語彙(2):記録語 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
	9.	第9回 中古の文法(1):準体句 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
	10.	第10回 中古の文法(2):係り結び 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
	第11回 中世前期の音韻・表記 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。	

11.	復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
12.	第12回 中世前期の語彙 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
13.	第13回 中世前期の文法 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
14.	第14回 古代語から近代語へ 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。

留意事項	
------	--

教科書 (購入必要)	ての世、教科書に関する履修学生店への連絡事項(非公)	1. 書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)

1.	書籍名	新訂 日本語の歴史
	著者	近藤泰弘・月本雅幸・杉浦克己
1.	出版社	放送大学教育振興会 ISBN(13桁) 978-4595305474
	参考図書に関する履修学生への連絡事項	
2.	書籍名	
	著者	
	出版社	ISBN(13桁)

参考図書 (任意購入)	参考図書に関する履修学生への連絡事項	
	書籍名	
	著者	
	3. 出版社	ISBN(13桁)
	参考図書に関する履修学生への連絡事項	
4.	書籍名	
	著者	
	出版社	ISBN(13桁)
	参考図書に関する履修学生への連絡事項	
	書籍名	
5.	著者	
	出版社	ISBN(13桁)
	参考図書に関する履修学生への連絡事項	
	書籍名	
	著者	
その他 (配布教材等により購入不要)	1. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項	毎回の授業時に資料を配布するため、教科書を購入する必要はありません。
	2. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項	
	3. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項	
	4. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項	
	5. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項	
参考URL	1. webサイト名	
	URL	
	参考URLに関する履修学生への連絡事項	
	webサイト名	
	URL	
2.	参考URLに関する履修学生への連絡事項	
	webサイト名	
	URL	
	参考URLに関する履修学生への連絡事項	
	webサイト名	
3.	URL	
	参考URLに関する履修学生への連絡事項	
	webサイト名	
	URL	
	参考URLに関する履修学生への連絡事項	
4.	webサイト名	
	URL	
	参考URLに関する履修学生への連絡事項	
	webサイト名	
	URL	
5.	webサイト名	
	URL	
	参考URLに関する履修学生への連絡事項	
	webサイト名	
	URL	
実務経験のある教員等による授業科目 (実践的教育を行う授業科目)	実践的教育を行う授業科目の種別	
	対象	
	a. 実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目 担当教員の実務経験(経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b. 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目 学外講師の経歴・資格等	
授業内容との関連性		

	c. 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目 実習先・実習の目的
備考	

年度	2026
講義名	日本語学特講Ⅱ(室町時代以降の日本語)
担当教員	三好 伸芳
開講キャンパス	武蔵野
授業の実施形態	対面／Face-to-Face
集中授業	
開講学年	2年生
単位数	2
授業の方法	講義
使用言語	日本語

授業概要	この授業では、近代日本語の変遷を辿りながら、歴史的日本語がどのような体系を有していたのかという点について学ぶ。近代日本語は、現代日本語と地続きのものであり、現在の日本語の体系が形成された過程を知るうえで重要である。現代日本語との対照言語学的観点にも十分留意しつつ、どのような動機で言語変化が生じたのかを受講者自身で説明できるようになることを目指す。
------	--

知識・専門性の到達目標	日本語の使用者として知っておかなければならない日本語に関する知識を習得し、日本の言語文化の特徴を理解している。【教養・基礎力】
関心・態度・人格の到達目標	
思考力・判断力の到達目標	日本語学を学ぶことにより、日本の歴史や社会と日本語との関係性を学び、言語文化のあり方を主体的に考えることができる思考力を身につける。【情報分析力・論理的思考力】
交感力・発信力の到達目標	日本語の特質を適切なことばで説明し、日本語の表現を歴史的背景を踏まえて分析的に捉えることができる。【表現力・言語運用能力】

「響学スパイラル」取り組み方法	本科目では、近代日本語の変遷を辿ることで、日常的に接する現代日本語がどのような過程を経て形成されたのかという点について、歴史的日本語と現代日本語との直接的な繋がりを論じる。そのため、「問う」、「考動する」という「響学スパイラル」の学びを実践していくことになる。
-----------------	--

授業における「アクティブな知」の要素	授業手法		対象
	A: 課題解決型学習(PBL)企業、自治体等との連携あり		—
	B: 課題解決型学習(PBL)連携なし		—
	C: 反転授業(知識習得を授業外で行い、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		○
	D: 討議(ディスカッション、ディベート等)		—
	E: グループワーク		—
	F: 発表(プレゼンテーション)		—
	G: 実習、フィールドワーク		—
	H: 双方向授業(ICT活用なし:対話型、リアクションペーパー等)		○
	I: 双方向授業(ICT活用あり:クリッカー、タブレット、スマートフォン等)		○
	J: 講義のみ		○
	K: その他		—

授業における「ICTの活用」について	活用形態		対象
	A: ノートPC必携		—
	B: 講義資料や授業教材のオンライン配信		○
	C: レポート課題等のオンライン提出		○
	D: 質問やレポート課題等へのフィードバックにおける学修管理システムの活用(学修支援システム(Course Power)、Google Classroom、Teams等)		○
	E: オンラインメディアの活用(e-Learning、edX、Coursera、JMOOC等のOpen Educational Resources)		—
	F: Zoom、Google Meet等のミーティングツールの活用		—
G: その他		—	

予習(事前学修)	各授業	予習課題について調べてくる。
	[120]分	

復習(事後学修)	各授業	毎回課される授業課題に取り組んで提出する。
	[120]分	

成績評価	評価項目	評価項目の詳細内容	割合
	課題提出(レポート)		0 %
	小テスト	毎回の授業内試験	80 %
	試験		0 %
	実習・学外学修活動		0 %
	その他	毎回のコメント提出、質疑等を通じての授業参加態度	20 %

授業計画	授業回	内容
	1.	第1回 日本語史における近代語 予習(120分):「近代語」について調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
	2.	第2回 中世後期の音韻・表記 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
	3.	第3回 中世後期の語彙 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
	4.	第4回 中世後期の文法 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
	5.	第5回 近世前期の音韻・表記 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
	6.	第6回 近世前期の語彙 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
	7.	第7回 近世前期の文法 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
	8.	第8回 近世後期の音韻・表記 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
	9.	第9回 近世後期の語彙 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
	10.	第10回 近世後期の文法 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
	第11回 近代の音韻・表記 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。	

11.	復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
12.	第12回 近代の語彙 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
13.	第13回 近代の文法 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
14.	第14回 近代語から現代語へ 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。

留意事項	
------	--

教科書 (購入必要)	ての世、教 科書に 関する 履修学 生への 連絡事 項(非公 表)	1. 書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)

1.	書籍名	新訂 日本語の歴史
	著者	近藤泰弘・月本雅幸・杉浦克己
1.	出版社	放送大学教育振興会 ISBN(13桁) 978-4595305474
	参考図書に 関する履修 学生への連 絡事項	
2.	書籍名	
	著者	
	出版社	ISBN(13桁)

参考図書 (任意購入)	参考図書に関する履修学生への連絡事項	
	3. 書籍名	
	著者	
	出版社	ISBN(13桁)
	参考図書に関する履修学生への連絡事項	
4. 書籍名		
	著者	
	出版社	ISBN(13桁)
	参考図書に関する履修学生への連絡事項	
	5. 書籍名	
著者		
出版社		ISBN(13桁)
参考図書に関する履修学生への連絡事項		
1. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項		毎回の授業時に資料を配布するため、教科書を購入する必要はありません。
	2. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項	
	3. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項	
	4. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項	
	5. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項	
参考URL	1. webサイト名	
	URL	
	参考URLに関する履修学生への連絡事項	
	2. webサイト名	
	URL	
	参考URLに関する履修学生への連絡事項	
	3. webサイト名	
	URL	
	参考URLに関する履修学生への連絡事項	
	4. webサイト名	
URL		
参考URLに関する履修学生への連絡事項		
5. webサイト名		
	URL	
	参考URLに関する履修学生への連絡事項	
	webサイト名	
	URL	
実務経験のある教員等による授業科目 (実践的教育を行う授業科目)	実践的教育を行う授業科目の種別	
	対象	
	a. 実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目 担当教員の実務経験(経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b. 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目 学外講師の経歴・資格等	
授業内容との関連性		

	<p data-bbox="300 141 1513 264"></p> <p data-bbox="300 264 1513 315">c. 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目 実習先・実習の目的</p> <p data-bbox="300 315 1513 439"></p>
備考	<p data-bbox="300 488 1513 734"></p>

年度	2026
講義名	日本語学研究(近代の日本語)
担当教員	三好 伸芳
開講キャンパス	武蔵野
授業の実施形態	対面／Face-to-Face
集中授業	
開講学年	3年生
単位数	2
授業の方法	講義
使用言語	日本語

授業概要	この授業では、近代日本語の変遷を辿りながら、歴史的日本語がどのような体系を有していたのかという点について学ぶ。近代日本語は、現代日本語と地続きのものであり、現在の日本語の体系が形成された過程を知るうえで重要である。現代日本語との対照言語学的観点にも十分留意しつつ、どのような動機で言語変化が生じたのかを受講者自身で説明できるようになることを目指す。
------	--

知識・専門性の到達目標	日本語の使用者として知っておかなければならない日本語に関する知識を習得し、日本の言語文化の特徴を理解している。【教養・基礎力】
関心・態度・人格の到達目標	
思考力・判断力の到達目標	日本語学を学ぶことにより、日本の歴史や社会と日本語との関係性を学び、言語文化のあり方を主体的に考えることができる思考力を身につける。【ことばの力】
交感力・発信力の到達目標	日本語の特質を適切なことばで説明することができる。【表現力】

「響学スパイラル」取り組み方法	本科目では、近代日本語の変遷を辿ることで、日常的に接する現代日本語がどのような過程を経て形成されたのかという点について、歴史的日本語と現代日本語との直接的な繋がりを論じる。そのため、「問う」、「考動する」という「響学スパイラル」の学びを実践していくことになる。
-----------------	--

授業における「アクティブな知」の要素	授業手法	対象
	A: 課題解決型学習(PBL)企業、自治体等との連携あり	
B: 課題解決型学習(PBL)連携なし		—
C: 反転授業(知識習得を授業外で行い、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		○
D: 討議(ディスカッション、ディベート等)		—
E: グループワーク		—
F: 発表(プレゼンテーション)		—
G: 実習、フィールドワーク		—
H: 双方向授業(ICT活用なし: 対話型、リアクションペーパー等)		○
I: 双方向授業(ICT活用あり: クリッカー、タブレット、スマートフォン等)		○
J: 講義のみ		○
K: その他		—

授業における「ICTの活用」について	活用形態	対象
	A: ノートPC必携	
B: 講義資料や授業教材のオンライン配信		○
C: レポート課題等のオンライン提出		○
D: 質問やレポート課題等へのフィードバックにおける学修管理システムの活用(学修支援システム(Course Power)、Google Classroom、Teams等)		○
E: オンラインメディアの活用(e-Learning、edX、Coursera、JMOOC等のOpen Educational Resources)		—
F: Zoom、Google Meet等のミーティングツールの活用		—
G: その他		—

予習(事前学修)	各授業	予習課題について調べてくる。
	[120]分	

復習(事後学修)	各授業	毎回課される授業課題に取り組んで提出する。
	[120]分	

成績評価	評価項目	評価項目の詳細内容	割合
	課題提出(レポート)		0 %
	小テスト	毎回の授業内試験	80 %
	試験		0 %
	実習・学外学修活動		0 %
	その他	毎回のコメント提出、質疑等を通じての授業参加態度	20 %

授業計画	授業回	内容
	1.	第1回 日本語史における近代語 予習(120分):「近代語」について調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
	2.	第2回 中世後期の音韻・表記 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
	3.	第3回 中世後期の語彙 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
	4.	第4回 中世後期の文法 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
	5.	第5回 近世前期の音韻・表記 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
	6.	第6回 近世前期の語彙 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
	7.	第7回 近世前期の文法 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
	8.	第8回 近世後期の音韻・表記 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
	9.	第9回 近世後期の語彙 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
	10.	第10回 近世後期の文法 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
	第11回 近代の音韻・表記 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。	

11.	復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
12.	第12回 近代の語彙 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
13.	第13回 近代の文法 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
14.	第14回 近代語から現代語へ 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。

留意事項	
------	--

教科書 (購入必要)	ての世、教 科書に 関す る履修 生 店への連絡 事項(非公 書)	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		1.	
		書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		2.	
		書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		3.	
		書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		4.	
		書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		5.	

1.	書籍名	新訂 日本語の歴史
	著者	近藤泰弘・月本雅幸・杉浦克己
1.	出版社	放送大学教育振興会
	ISBN(13桁)	978-4595305474
2.	書籍名	
	著者	
2.	出版社	ISBN(13桁)

参考図書 (任意購入)	参考図書に関する履修学生への連絡事項	
	3. 書籍名	
	著者	
	出版社	ISBN(13桁)
	参考図書に関する履修学生への連絡事項	
4. 書籍名		
	著者	
	出版社	ISBN(13桁)
	参考図書に関する履修学生への連絡事項	
	5. 書籍名	
著者		
出版社	ISBN(13桁)	
参考図書に関する履修学生への連絡事項		
その他 (配布教材等により購入不要)	1. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項	毎回の授業時に資料を配布するため、教科書を購入する必要はありません。
	2. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項	
	3. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項	
	4. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項	
	5. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項	
参考URL	1. webサイト名	
	URL	
	参考URLに関する履修学生への連絡事項	
	2. webサイト名	
	URL	
	参考URLに関する履修学生への連絡事項	
	3. webサイト名	
	URL	
	参考URLに関する履修学生への連絡事項	
	4. webサイト名	
URL		
参考URLに関する履修学生への連絡事項		
実務経験のある教員等による授業科目 (実践的教育を行う授業科目)	実践的教育を行う授業科目の種別	
	a. 実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目 担当教員の実務経験(経歴・資格等)	対象
	授業内容との関連性	
	授業内容との関連性	
b. 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目 学外講師の経歴・資格等		対象
授業内容との関連性		
授業内容との関連性		

	<p data-bbox="300 141 1513 264"></p> <p data-bbox="300 264 1513 315">c. 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目 実習先・実習の目的</p> <p data-bbox="300 315 1513 439"></p>
備考	<p data-bbox="300 488 1513 734"></p>

年度	2026
講義名	リハビリテーション論
担当教員	志田 航平
開講キャンパス	武蔵野
授業の実施形態	対面（オンライン併用。対面実施回が半数以上）／Face-to-Face (combined with Online: 50% or more of the classes are Face-to-Face)
集中授業	
開講学年	2年生
単位数	2
授業の方法	講義
使用言語	日本語

授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・医療職と連携して仕事をするために必要な知識として、リハビリテーションに関する体系、病期別のリハビリテーション、各疾患におけるリハビリテーションの役割について理解する。 ・リハビリテーションに関わる専門職種の役割と連携方法、病院から施設、地域における医療と福祉の連携方法などについて実際の事例を交えながら概説する。 ・具体的な事例などを活用して、実際のリハビリテーションについて理解する。
------	--

知識・専門性の到達目標	リハビリテーションに関する知識やその役割を理解し、ソーシャルワーカーに必要な医療と福祉の連携について他者に説明できる。 【教養・基礎力】
関心・態度・人格の到達目標	
思考力・判断力の到達目標	
交感力・発信力の到達目標	

「響学スパイラル」取り組み方法	
-----------------	--

授業における「アクティブな知」の要素	<table border="1"> <thead> <tr><th>授業手法</th><th>対象</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>A: 課題解決型学習 (PBL) 企業、自治体等との連携あり</td><td>×</td></tr> <tr><td>B: 課題解決型学習 (PBL) 連携なし</td><td>×</td></tr> <tr><td>C: 反転授業 (知識習得を授業外で行い、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)</td><td>×</td></tr> <tr><td>D: 討議 (ディスカッション、ディベート等)</td><td>○</td></tr> <tr><td>E: グループワーク</td><td>×</td></tr> <tr><td>F: 発表 (プレゼンテーション)</td><td>×</td></tr> <tr><td>G: 実習、フィールドワーク</td><td>×</td></tr> <tr><td>H: 双方向授業 (ICT活用なし: 対話型、リアクションペーパー等)</td><td>×</td></tr> <tr><td>I: 双方向授業 (ICT活用あり: クリッカー、タブレット、スマートフォン等)</td><td>×</td></tr> <tr><td>J: 講義のみ</td><td>○</td></tr> <tr><td>K: その他</td><td>×</td></tr> </tbody> </table>	授業手法	対象	A: 課題解決型学習 (PBL) 企業、自治体等との連携あり	×	B: 課題解決型学習 (PBL) 連携なし	×	C: 反転授業 (知識習得を授業外で行い、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	×	D: 討議 (ディスカッション、ディベート等)	○	E: グループワーク	×	F: 発表 (プレゼンテーション)	×	G: 実習、フィールドワーク	×	H: 双方向授業 (ICT活用なし: 対話型、リアクションペーパー等)	×	I: 双方向授業 (ICT活用あり: クリッカー、タブレット、スマートフォン等)	×	J: 講義のみ	○	K: その他	×
	授業手法	対象																							
	A: 課題解決型学習 (PBL) 企業、自治体等との連携あり	×																							
	B: 課題解決型学習 (PBL) 連携なし	×																							
	C: 反転授業 (知識習得を授業外で行い、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	×																							
	D: 討議 (ディスカッション、ディベート等)	○																							
	E: グループワーク	×																							
	F: 発表 (プレゼンテーション)	×																							
	G: 実習、フィールドワーク	×																							
	H: 双方向授業 (ICT活用なし: 対話型、リアクションペーパー等)	×																							
	I: 双方向授業 (ICT活用あり: クリッカー、タブレット、スマートフォン等)	×																							
J: 講義のみ	○																								
K: その他	×																								

授業における「ICTの活用」について	<table border="1"> <thead> <tr><th>活用形態</th><th>対象</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>A: ノートPC必携</td><td>×</td></tr> <tr><td>B: 講義資料や授業教材のオンライン配信</td><td>×</td></tr> <tr><td>C: レポート課題等のオンライン提出</td><td>×</td></tr> <tr><td>D: 質問やレポート課題等へのフィードバックにおける学修管理システムの活用 (学修支援システム (Course Power)、Google Classroom、Teams等)</td><td>×</td></tr> <tr><td>E: オンラインメディアの活用 (e-Learning、edX、Coursera、JMOOC等のOpen Educational Resources)</td><td>×</td></tr> <tr><td>F: Zoom、Google Meet等のミーティングツールの活用</td><td>×</td></tr> <tr><td>G: その他</td><td>×</td></tr> </tbody> </table>	活用形態	対象	A: ノートPC必携	×	B: 講義資料や授業教材のオンライン配信	×	C: レポート課題等のオンライン提出	×	D: 質問やレポート課題等へのフィードバックにおける学修管理システムの活用 (学修支援システム (Course Power)、Google Classroom、Teams等)	×	E: オンラインメディアの活用 (e-Learning、edX、Coursera、JMOOC等のOpen Educational Resources)	×	F: Zoom、Google Meet等のミーティングツールの活用	×	G: その他	×
	活用形態	対象															
	A: ノートPC必携	×															
	B: 講義資料や授業教材のオンライン配信	×															
	C: レポート課題等のオンライン提出	×															
	D: 質問やレポート課題等へのフィードバックにおける学修管理システムの活用 (学修支援システム (Course Power)、Google Classroom、Teams等)	×															
	E: オンラインメディアの活用 (e-Learning、edX、Coursera、JMOOC等のOpen Educational Resources)	×															
F: Zoom、Google Meet等のミーティングツールの活用	×																
G: その他	×																

予習 (事前学修)	各授業	各授業回の内容について事前に調べる
	[10]分	

復習 (事後学修)	各授業	配布資料やスライド、動画の内容をもとに復習をする
	[20]分	

成績評価	評価項目	評価項目の詳細内容	割合
	課題提出(レポート)		0 %
	小テスト		0 %
	試験		100 %
	実習・学外学修活動		0 %
	その他		0 %

授業計画	授業回	内容
	1.	リハビリテーションの概要:オリエンテーション、リハビリテーションとは、リハビリテーションの種類、医療と介護 *リハビリテーションの概念から具体的なリハビリテーションの種類、医療・介護制度についてお話しします 予習:リハビリテーションの概要について調べる 復習:配布資料をもとにリハビリテーションの概念や種類などを学習する
	2.	疾病と障害:障害の分類(ICIDHとICF)、障害の種類とその影響 *リハビリテーションに重要な障害分類と障害の種類についてお話しします 予習:ICIDHとICFについて調べる 復習:配布資料と授業をもとに障害分類を学習する
	3.	リハビリテーションの分野:リハビリテーションに関わる各専門職種との役割、連携方法 *リハビリテーションに関わる職種の紹介 *チーム医療について概説します 予習:リハビリテーションに関わる職種について調べる 復習:配布資料と授業をもとにチーム医療について学習する
	4.	医学的リハビリテーション:評価の流れ、病期別のリハビリテーション *リハビリテーションのなかでも医学的リハビリテーションの流れや病期別のリハビリテーションについてお話しします 予習:医学的リハビリテーションについて調べる 復習:配布資料と授業をもとに医学的リハビリテーションの実際を復習する
	5.	障害別リハビリテーション1:整形外科疾患(骨折・変形性関節症など)の特徴とリハビリテーション *代表的な整形外科疾患に対するリハビリテーションについてお話しします 予習:整形外科疾患のリハビリテーションについて調べる 復習:配布資料と授業をもとに代表的な整形外科疾患のリハビリテーションを復習する
	6.	障害別リハビリテーション2:中枢神経疾患(脳卒中など)の特徴とリハビリテーション *代表的な中枢神経疾患に対するリハビリテーションについてお話しします 予習:中枢神経疾患のリハビリテーションについて調べる 復習:配布資料と授業をもとに代表的な中枢神経疾患のリハビリテーションを復習する
	7.	障害別リハビリテーション3:内部機能障害(糖尿病など)の特徴とリハビリテーション *代表的な内部機能障害に対するリハビリテーションについてお話しします 予習:内部機能障害のリハビリテーションについて調べる 復習:配布資料と授業をもとに代表的な内部機能障害のリハビリテーションを復習する
	8.	障害別リハビリテーション4:地域における対象者の特徴とリハビリテーション *訪問リハビリテーションを代表とした地域リハビリテーションについてお話しします 予習:地域におけるリハビリテーションについて調べる 復習:配布資料と授業をもとに訪問リハビリテーションを代表とする地域リハビリテーションについて復習する
	9.	障害別リハビリテーション5:発達障害の特徴とリハビリテーション *代表的な発達障害に対するリハビリテーションについてお話しします 予習:発達障害に対するリハビリテーションについて調べる 復習:配布資料と授業をもとに代表的な発達障害に対するリハビリテーションについて復習する
	10.	障害別リハビリテーション6:がんのリハビリテーション *がんのリハビリテーションについてお話しします。 予習:がんのリハビリテーションについて調べる 復習:配布資料と授業をもとにがんに対するリハビリテーションについて復習する
11.	リハビリテーションのなかの理学療法、作業療法、言語聴覚療法: *理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が行う具体的なリハビリテーション内容についてお話しします 予習:理学療法、作業療法、言語聴覚療法の具体的な内容について調べる	

	11.	予習:埋字療法、作業療法、言語聴覚療法の具体的な内容について調べる 復習:配布資料と授業をもとに理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が行う具体的なリハビリテーション内容を学習する
	12.	義肢・装具:義肢・装具の種類、各切断の特徴 *リハビリテーションに必要な義肢・装具について具体的な例についてお話しします 予習:義肢・装具について調べる 復習:配布資料と授業をもとに義肢・装具の具体的な内容を学習する
	13.	定期試験 *第1～12回目に配布したプリント、講義を復習してください
	14.	総括とテストのフィードバック *テストのフィードバックと質疑応答を行います

留意事項	<ul style="list-style-type: none"> 必ず出席してください。規定の出席不足は成績をつけられません。 不正出席が確認された場合には、単位取り消しとなります。 授業中の私語・飲食は他の学生の迷惑になるので禁じる。 講義中に事例を通して考えたり、体験することが多いので積極的な参加を期待する。 (事例の画像や動画は患者などの善意によるものであることを自覚すること)
------	---

教科書 (購入必要)	1.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		その他、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公)	
		書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		その他、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公)	
		書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		その他、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公)	
		書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		その他、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公)	
		書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		その他、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公)	

	1.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		参考文献に関する履修学生への連絡事項(非公)	
		書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		参考文献に関する履修学生への連絡事項(非公)	
		書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		参考文献に関する履修学生への連絡事項(非公)	
		書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		参考文献に関する履修学生への連絡事項(非公)	

参考図書 (任意購入)	3.	著者 出版社 参考図書に関する履修学生への連携 書籍名	ISBN(13桁)
	4.	著者 出版社 参考図書に関する履修学生への連携 書籍名	ISBN(13桁)
	5.	著者 出版社 参考図書に関する履修学生への連携 書籍名	ISBN(13桁)
その他 (配布教材等により購入不要)	1.	配布教材等に関する履修学生への連携	
	2.	配布教材等に関する履修学生への連携	
	3.	配布教材等に関する履修学生への連携	
	4.	配布教材等に関する履修学生への連携	
	5.	配布教材等に関する履修学生への連携	
参考URL	1.	webサイト名 URL 参考URLに関する履修学生への連携	
	2.	webサイト名 URL 参考URLに関する履修学生への連携	
	3.	webサイト名 URL 参考URLに関する履修学生への連携	
	4.	webサイト名 URL 参考URLに関する履修学生への連携	
	5.	webサイト名 URL 参考URLに関する履修学生への連携	
実務経験のある教員等による授業科目 (実践的教育を行う授業科目)	実践的教育を行う授業科目の種別		対象
	a. 実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目 担当教員の実務経験(経歴・資格等)		
	授業内容との関連性		
	b. 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目 学外講師の経歴・資格等		
授業内容との関連性			

	<p>c. 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目 実習先・実習の目的</p>
備考	

年度	2026
講義名	社会福祉発達史
担当教員	野口 友紀子
開講キャンパス	武蔵野
授業の実施形態	対面（オンライン併用。対面実施回が半数以上）／Face-to-Face (combined with Online: 50% or more of the classes are Face-to-Face)
集中授業	
開講学年	1年生
単位数	2
授業の方法	講義
使用言語	日本語

授業概要	この授業の目的は「社会福祉とは何か」を歴史を通して学ぶことです。今回は「まなざし」という視点で、明治期から第二次世界大戦前までの主に日本の「福祉っぽいもの」の歴史をたどります。講義に加えて、受講生にも参加してもらいながら授業を進めます。これまで社会福祉の歴史のテキストを手にとって、難しそう、分かりにくい、つらいと感じていた人におすすめの授業です。この講義では、社会福祉という実践的な学問に歴史研究が必要であると感じてもらうことを最終的な到達目標としています。
------	--

知識・専門性の到達目標	日本と先進国を中心とした海外の社会福祉の発達史を理解する。【教養・基礎力】
関心・態度・人格の到達目標	
思考力・判断力の到達目標	
交感力・発信力の到達目標	

「響学スパイラル」取り組み方法	問う:現在の社会福祉の形成過程に関心を寄せる。 考動する:講義やテキストで学んだことを深めるために文献にあたる。 カタチにする:特に関心のある領域を深く掘り下げ、レポートを作成する。 見つめ直す:レポートを踏まえて、十分に掘り下げられなかったところを補足する。
-----------------	---

授業手法	対象
A:課題解決型学習(PBL)企業、自治体等との連携あり	-
B:課題解決型学習(PBL)連携なし	-
C:反転授業(知識習得を授業外で行い、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	-
D:討議(ディスカッション、ディベート等)	-
E:グループワーク	-
F:発表(プレゼンテーション)	○
G:実習、フィールドワーク	-
H:双方向授業(ICT活用なし:対話型、リアクションペーパー等)	○
I:双方向授業(ICT活用あり:クリッカー、タブレット、スマートフォン等)	○
J:講義のみ	-
K:その他	-

活用形態	対象
A:ノートPC必携	○
B:講義資料や授業教材のオンライン配信	○
C:レポート課題等のオンライン提出	○
D:質問やレポート課題等へのフィードバックにおける学修管理システムの活用(学修支援システム(Course Power)、Google Classroom、Teams等)	○
E:オンラインメディアの活用(e-Learning、edX、Coursera、JMOOC等のOpen Educational Resources)	-
F:Zoom、Google Meet等のミーティングツールの活用	○
G:その他	-

予習(事前学修)	各授業 事前に提示したことをやってくる。 [[平均]]分
----------	---------------------------------

復習(事後学修)	各授業 講義内容全体を復習しておくこと。 [[平均]]分
----------	---------------------------------

成績評価	評価項目	評価項目の詳細内容	割合
	課題提出(レポート)	レポート	50%
	小テスト		0%
	試験		0%
	実習・学外学修活動		0%
	その他	発表会での発表、発表内容、発表時のスライドの提出	50%

授業計画	授業回	内容
	1.	イントロダクション 授業概要、授業計画、授業評価の説明。 テーマ:「まなざし」の変化からみる歴史とは？ 予習: テキストの目次に目を通しておくこと。 復習: 講義内容全体を復習しておくこと。(2時間)
	2.	日本の社会福祉の歴史1 テーマ: 自助へのまなざし・下層社会へのまなざし 予習: テキストを読んでおくこと。わからない用語は事前に調べること。(2時間) 復習: 関連図書を探し、読んでおくこと。(2時間)
	3.	日本の社会福祉の歴史2 テーマ: 普通の貧困者の発見・工場で働く人びとへのまなざし・感化の再編 予習: 次回取り上げる時代について、調べておくこと。(2時間) 復習: 講義内容全体を復習しておくこと。関連図書を探し、読んでおくこと。(2時間)
	4.	日本の社会福祉の歴史3 テーマ: 貧困調査というまなざし・防貧対策の実施 予習: テキストを読んでおくこと。わからない用語は事前に調べること。(2時間) 復習: 講義内容全体を復習しておくこと。関連図書を探し、読んでおくこと。(2時間)
	5.	日本の社会福祉の歴史4 テーマ: 農村へのまなざし・戦時体制下でのまなざし 予習: 次回取り上げる時代について、調べておくこと。(2時間) 復習: 講義内容全体を復習しておくこと。関連図書を探し、読んでおくこと。(2時間)
	6.	日本の社会福祉の歴史5 テーマ: 戦時期の対策・戦後の取り組み 予習: テキストを読んでおくこと。わからない用語は事前に調べること。(2時間) 復習: 講義内容全体を復習しておくこと。関連図書を探し、読んでおくこと。(2時間)
	7.	非常事態の社会福祉の歴史1 テーマ: 騒擾、自然災害 予習: テキストを読んでおくこと。わからない用語は事前に調べること。(2時間) 復習: 講義内容全体を復習しておくこと。関連図書を探し、読んでおくこと。(2時間)
	8.	非常事態の社会福祉の歴史2 テーマ: 戦争、疫病 予習: テキストを読んでおくこと。わからない用語は事前に調べること。(2時間) 復習: 講義内容全体を復習しておくこと。関連図書を探し、読んでおくこと。(2時間)
	9.	イギリスの社会福祉の歴史 テーマ: 17世紀以降のイギリスの社会福祉の歴史。 予習: テキストを読んでおくこと。わからない用語は事前に調べること。(2時間) 復習: 講義内容全体を復習しておくこと。関連図書を探し、読んでおくこと。(2時間) 次週のスライドを作成し提出すること。
	10.	ドイツの社会保障の歴史 テーマ: 19世紀の社会保険制度の形成。 予習: テキストを読んでおくこと。わからない用語は事前に調べること。(2時間) 復習: 講義内容全体を復習しておくこと。関連図書を探し、読んでおくこと。(2時間) 次週のスライドを作成し提出すること。
	11.	発表会 スライドを作成し、発表する。 予習: これまで学んだことを振り返っておくこと。(2時間) 復習: 発表内容をテキストで確認しておくこと。(2時間)

	12.	発表会 スライドを作成し、発表する。 予習:これまで学んだことを振り返っておくこと。(2時間) 復習:発表内容をテキストで確認しておくこと。(2時間)
	13.	この授業のまとめ テーマ:明治期から第二次世界大戦後の日本の社会福祉の形成過程 予習:これまで学んだことを振り返っておくこと。(2時間) 復習:レポートを書く準備をすること。(2時間)
	14.	この授業のまとめ テーマ:明治期から第二次世界大戦後の日本の社会福祉の形成過程 予習:この授業で学んだことを各自で学習しておく。(2時間) 復習:レポートを書く準備をすること。講義内容全体を復習しておくこと。(2時間)

留意事項	
------	--

教科書 (購入必要)	1.	書籍名	社会福祉のあゆみ	
		著者	金子光一	
		出版社	有斐閣	ISBN(13桁) 9784641122703
		その他、教科書に関する履修学生への連絡事項		
		紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)		
	2.	書籍名		
		著者		
		出版社		ISBN(13桁)
		その他、教科書に関する履修学生への連絡事項		
		紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)		
	3.	書籍名		
		著者		
		出版社		ISBN(13桁)
		その他、教科書に関する履修学生への連絡事項		
		紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)		
4.	書籍名			
	著者			
	出版社		ISBN(13桁)	
	その他、教科書に関する履修学生への連絡事項			
	紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)			
5.	書籍名			
	著者			
	出版社		ISBN(13桁)	
	その他、教科書に関する履修学生への連絡事項			
	紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)			

	1.	書籍名	社会福祉発達史キーワード
		著者	古川孝順・金子光一
		出版社	有斐閣
	参考図書に関する履修学生への連絡事項		
	2.	書籍名	
著者			
出版社			ISBN(13桁)
参考図書に関する履修学生への連絡事項			

参考図書 (任意購入)	3.	関する履修 学生への通	
		書籍名	
		著者	
	4.	参考図書に 関する履修 学生への通	
		書籍名	
		著者	
	5.	参考図書に 関する履修 学生への通	
		書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		出版社	ISBN(13桁)
		出版社	ISBN(13桁)

その他 (配布教材等により購入不 要)	1.	配布教材等 に関する履 修常教員等	
	2.	に関する履 修常教員等	
	3.	に関する履 修常教員等	
	4.	に関する履 修常教員等	
	5.	に関する履 修学生への	

参考URL	1.	webサイト名	
		URL	
		参考URLに 関する履修 学生への通	
	2.	webサイト名	
		URL	
		参考URLに 関する履修 学生への通	
	3.	webサイト名	
		URL	
		参考URLに 関する履修 学生への通	
	4.	webサイト名	
		URL	
		参考URLに 関する履修 学生への通	
	5.	webサイト名	
		URL	
		参考URLに 関する履修 学生への通	

実践的教育を行う授業科目の種別		対象
a. 実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目 担当教員の実務経験(経歴・資格等)		-
授業内容との関連性		
b. 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目 学外講師の経歴・資格等		-
授業内容との関連性		

実務経験のある教員等による授業科目
(実践的教育を行う授業科目)

	<p>c. 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目 実習先・実習の目的</p>
備考	<p>Teamsによる授業連絡、レジュメ提出、資料配信、学生間交流。</p>